

『田布施町ふるさと交流会 in 東京』を開催しました

8月24日（土）、東京都千代田区で田布施町にゆかりのある人が集まり、『田布施町ふるさと交流会』を開催しました。総勢42名（町長・スタッフ含）が参加し、友人やこの会場で新たに知り合われた人と『ふるさと 田布施町』を話題に、交流を深めました。

隣接した会場では『ひらおファンクラブ交流会』も開催され、両町の参加者が会場を自由に行き来し、町の垣根を越え親睦を深めました。会場では田布施町から持参したいちじくなどの特産品を提供し、参加者は『ふるさとの味』を喜んで頂きました。最後は、特産品の抽選会を行い、大いに盛り上がりました。



私たちと人権シリーズ No.134

人のために生きる

特別養護老人ホームたぶせ苑
施設長

南 美津子

「人は人のために生きてこそ人」秀吉が、竹中半兵衛を説得するときに使った言葉とされています。福祉の世界は、まさに人のために生きる世界です。私どもの施設におきましても、365日昼夜を問わず、高校を卒業したばかりのお嬢さんから、その道20数年のベテラン職員までが、ご利用者様のお世話をしています。

我々の働く福祉の現場は、労働条件が非常に厳しいと世間で周知されています。しかし、それが強調されすぎていると感じることもあります。認知症の方が引き起こす珍事に、時に大きな笑い声ははじけ、「ありがと。ありがと。」と手を合わせられ恐れ縮したり、何気ないやり取りに心の安らぎを覚えたり。

先日、一人のご利用者様に

職員が、「ねえ、ぞうさん歌って。」と頼んでいました。この人の『ぞうさん』は、ご自分がアレンジされていて、（本人は、原曲だと信じている）最後が思わず優しい気持ちにさせてくれる歌詞になっています。彼女が歌い始めると、周りに職員が集まってきて、最後のフレーズを待ちます。「かあさんも そうなんでえすうよう〜」これを聴くと皆がくすぐったそうに笑い、顔を見合わせます。ご利用者様のために仕事をしていると思っている私達が、ご利用者様に癒やしていただいていることを感じる一瞬です。

人生100年を言われる時代となりました。自分で食べる事ができなくなった方に介助をして召し上がっていただく、トイレに行けなくなった方の排泄のお世話をします。歩けなくなった方の杖代わりとなり支える。車椅子を押す。こういう我々の仕事は、人類のたどる当然の帰結に寄り添う行為です。人として最後まで尊厳を保ち、安楽に暮らせるようにお手伝いできることは、福祉の職に就いているものの喜びです。